平成 21 年度教育実践研究実施状況実施状況（大学実施分）

	研究題目	実施期間	研究組織・代表者	構成メンバー（所属）	研究内容	備考
教育実践研究支援センター	教員養成大学および学部における教育実習のあり方等に関する研究	平成 21 年度	日本教育大学協会　全国教育実習研究部門（代表：平野朝久・東京学芸大学）	櫻井眞治、矢嶋昭雄（教育実践研究支援センター）、教大協会員の 30 大学から約 50 名	「教職実践演習と教育実習」「支援の必要な学生の教育実習」など今日的な課題に対する実践研究を行った。	
	教育実習における学生のメンタルヘルス支援についての研究	平成 18 ～ 21 年度	教育実践研究支援センター　教育実習指導部門	平野朝久、櫻井眞治、矢嶋昭雄（教育実践研究支援センター）、大森美湖（保健管理センター）、松村茂治、五十嵐一郎（附属学校運営参事）、学務部学務課	教育実習における学生のメンタルヘルス支援のあり方に関する実践研究を行った。	
	教育実習に関する記録・資料等のデータベース化の研究	平成 21 年度	教育実践研究支援センター　教育実習指導部門	櫻井眞治、矢嶋昭雄（教育実践研究支援センター）	教育実習において学生が作成した学習指導案やワークシートなどの書類や、授業の実際を撮影した映像などをデジタル化して保存するための基礎的な研究を行った。	
	教育実習の評価のあり方についての研究	平成 21 年度	教育実践研究支援センター　教育実習指導部門	平野朝久、櫻井眞治、矢嶋昭雄（教育実践研究支援センター）、堀井孝彦（世田谷小）、和井内良樹（小金井小）、上田真也（大泉小）、浅見優子（竹早小）、荒井正剛（世田谷中）、青柳有季（小金井中）、鈴木健一（竹早中）、石川直美（国際中等）、安井崇（高等学校）、福井正之（高等学校大泉校舎）	平成 19 年度より本格的に使用を始めた現行の教育実習成績報告書について、その意義や課題を明らかにし、教育実習の評価のあり方について研究を深めた。	
放射性同位元素総合実験施設	環境総合科学課程のための原子力教育カリキュラムと教材の開発およびその活用	着手日 平成 21 年 5 月 29 日 完了日 平成 22 年 3 月 31 日	鎌田正裕（理科教育学）	平田昭雄(理科教育学),松浦執(理科教育学),荒川悦雄(物理科学),斎藤　昭(分子化学),飯田秀利(生命科学),中田正隆（宇宙地球科学）,三田雅敏（生命科学）	環境総合科学課程向けのカリキュラムと教材を開発し、これを用いて原子力についての広範かつ専門的な知識を有した科学者や技術者等を養成する。	
環境教育実践施設	「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム（グローブ）推進事業」（文科省委託事業）	平成 21 年 4 月～ 平成 22 年 3 月	環境教育実践施設 吉冨　友恭	吉冨友恭（環境教育実践施設，グローブ日本中央センター事務局長） 大井みさほ（グローブ日本前カントリーコーディネーター） 山下脩二（グローブ日本カントリーコーディネーター） 木俣美樹男(環境教育実践施設) 樋口利彦（環境教育実践施設） 原子栄一郎(環境教育実践施設) 小川潔（自然科学系広域自然科学講座） 澤田康徳（人文社会科学系人文科学講座）	GLOBE 計画に参加する学校及び諸外国との連絡調整、GLOBE 計画に参加する学校に対する指導・助言、その他本事業を推進するために必要な調査研究を行う。	
	総合的道徳教育プログラム開発「『心の芯』を耕す環境教育の体験学習プログラム」	平成 21 年 9 月～ 平成 22 年 3 月	環境教育実践施設　原子　栄一郎	木俣美樹男(環境教育実践施設) 樋口利彦（環境教育実践施設） 吉冨友恭（環境教育実践施設） 杉森伸吉（総合教育科学系教育心理学講座） 佐川勝史（附属竹早小学校）	「心の成長」特に「心の芯」を耕し養う環境教育の体験学習の原石を取り上げ、その鑑賞研究からアクションリサーチへ向けての準備研究を行う。	
	小金井・国分寺・小平「環境教育実践フォーラム」	平成 22 年 1 月 18 日	環境教育実践施設 樋口　利彦	まだ，正式メンバーの組織化を行っていない。	近隣自治体の小学校や中学校で実施される環境教育実践を把握し，そうした実践を分析することで，学校における環境教育の理論構築を行う。	
国際教育センター	第 30 回海外子女教育セミナー	平成 21 年 5 月 16 日	国際教育センター 見世千賀子	佐藤郡衛、吉谷武志、見世千賀子、榊原知美（国際教育センター）	在外教育施設派遣教員登録者、在外教育施設に派遣を希望する教員、海外子女教育に関心をもつ方を対象に、講演、講義、実践報告、ワークショップを実施。	
	第 10 回外国人児童生徒教育フォーラム	平成 21 年 10 月 3 日	国際教育センター 佐藤郡衛	佐藤郡衛、吉谷武志、見世千賀子、榊原知美（国際教育センター）	「外国につながる生徒の進路選択とその支援をめぐって」をテーマとして、進路意識にどのような特徴があるか、どのような進路選択をしているかといった現状把握を出発点にして、どのような支援が必要か、あるいは可能か。について、講演、事例報告、パネルディスカッションを実施。	

国際教育センター	第１回多文化共生フォーラム	平成 22 年 1 月 30 日	国際教育センター 佐藤郡衛	佐藤郡衛、吉谷武志、見世千賀子、榊原知美（国際教育センター）	第１回は「教員養成大学における多文化共生の教育への取り組みの現状と課題―外国につながる子どもの教育を中心に -」をテーマとして、３つの教員養成大学から各大学及び各個人の取り組みの現状について、実践の報告、課題の提示受けて、パネルディスカッションを行い、今後のあり方について議論を深めた。	教　員 FD 研修認定
	東京外国語大学（多言語・多文化教育研究センター）との共同シンポジウム（第１回）	平成 22 年 2 月 23 日	国際教育センター 吉谷武志	佐藤郡衛、吉谷武志、見世千賀子、榊原知美（国際教育センター）　青山亨、杉澤経子（東外大多言語・多文化教育研究センター）	本学・東外大両センターの特色、設置趣旨、活動分野を共に生かしながら、多文化共生社会における多言語・多文化社会研究、国際教育研究、異文化間教育研究、多文化教育研究及びそれらの実践の進化と発展のために共同シンポジウムを組織した。第２回は、つなぐ「人」とその役割 - 教室、家庭、地域から - をテーマとして、多文化社会への移行をみすえて、今後の日本の教育（学校教育、地域でのコミュニティーづくり、人つくり、地域つくり）や地域社会が果たすべき役割を考える。そのために様々な立場から課題の提示を受け、ワークショップ形式で共通の課題を見出して議論を深めた。	
	第３回国際教育センターフォーラム	平成 22 年 3 月 6 日	国際教育センター 榊原知美	佐藤郡衛、吉谷武志、見世千賀子、榊原知美（国際教育センター）	今回は、これから当センターにおいて共同研究プロジェクトとして取り組んでいこうとする課題について、外部の講師から様々な視点からの発題を頂き、今後の方向性についてディスカッションすることを目的とした。テーマは「日本における市民性の教育の可能性と課題」。多文化化の進行する日本社会において「共生」という課題を可能にする市民性の育成を教育においてどのように進めていけはよいか議論を深めた。	
	JSL を生かした外国人児童生徒教育指導者研修会１・２	1. 平成 22 年 7 月 4 日 2. 平成 22 年 11 月 29 日	国際教育センター 吉谷武志	佐藤郡衛、吉谷武志、見世千賀子、榊原知美（国際教育センター）	文部科学省受託事業が好評のうちに終了したため本学が引き継いだものである。外国人児童生徒の指導に携わる教員等が、外国人児童生徒教育や日本語指導、JSL ｶﾘｷｭﾗﾑなど、外国人児童生徒を指導する上で必要となる知識を習得することを目的として、講義、実習、演習を実施。第２回は参加者の指導の振り返りとブラッシュ・アップを図った。	
	JSL を生かした外国人児童生徒教育指導者セミナー・イン福岡	平成 22 年 2 月 27 日	国際教育センター 吉谷武志	佐藤郡衛、吉谷武志、見世千賀子、榊原知美（国際教育センター）	本セミナーは、従来、東京学芸大学で実施してきたものを福岡で開催し、外国人児童生徒教育指導者（担当者）と学校、行政関係者のスキルアップを図った。	福岡市教育委員会後援
総合教育科学系（個人）	学校掃除の教育的効果測定に関わる共同研究	2009 年 1 月 1 日（又は契約締結日）から 2010 年 3 月 31 日まで	大竹美登利	株式会社ダスキン暮らしの快適化生活研究所　所長　植松秀行 小金井市立前原小学校及び大阪府吹田市立小学校	東京・大阪の小学校（各１校）にて、１年間を通じて掃除教育を実施いただき、子どもたちにどのような影響を与えることができるのか検証を行う。	
	臨床心理学における実績能力の検討	平成 21 年度（平成 21 年 4 月から 22 年 3 月）	佐野秀樹	大河原美以（教育心理学） 福井里江（教育心理学） 松田　修（教育心理学） 松尾直博（教育心理学）	臨床心理学コースの大学院生の実践能力を高めるために、教員と大学院生のカンファレンスを定期的に開き、大学院生の臨床実践の検討会を行った。	臨床心理基礎実習Ⅰの一部として行った。

総合教育科学系（個人）	地域の生活に根ざす家庭科	2008 年 11 月～ 2011 年 3 月	日景弥生	青木　香保里（愛知教育大学） 望月　一枝（秋田大学） 日景　弥生（弘前大学） 渡瀬　典子（岩手大学） 渡部　美恵子（山形県立高校） 大竹　美登利（東京学芸大学） 小野　恭子（東京学芸大学附属大泉小学校） 堀内　かほる（横浜国立大学） 鈴木民子（都立高校）	家庭科における“地域”とは何かを考え、家庭科誕生以来“地域”学習はどのように変わってきたかを学習指導要領と山形県高校家庭科授業研究の二つの面から捉える。さらに、“地域”を意識した授業を小・中・高校で実践し、そこから“地域”教材について再考する。	
	家庭科における命を題材とした視聴覚教材の開発	2009 年 10 月～ 2010 年 3 月	小野恭子	大竹美登利（総合教育科学系） 佐藤麻子（附属小金井中学校） 室木有紀子（附属小金井小学校）阿部睦子（附属竹早中学校） 酒井やよい（附属高校）桒原智美（附属世田谷中学校） 石津みどり（国際中等学校） 小野恭子（附属大泉小学校） 池尻加奈子（附属特別支援学校）	妊娠から出産までの胎児の映像及び家族の会話を中心とした「命の誕生」についての視聴覚教材を作成し、その視聴覚教材を活用して小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で、道徳性を含んだ家庭科の授業の実践を行う。	
	男女共同参画白書づくりを通じて学ぶ身の周りのジェンダー・バイアス	2009 年 10 月～ 2010 年 3 月	中澤智恵	浅見優子（附属竹早小学校） 大竹美登利（総合教育科学系生活科学講座） 苫米地伸（人文社会科学系社会学講座） 中澤智恵（総合教育科学系生活科学講座）	『子どもが作る「竹早小学校男女共同参画白書」』の実践研究を、道徳教育教材開発の観点から継続・発展させる。	
	子どもの感情制御の発達不全に関する研究	平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	大河原美以	大河原美以 大河原研究室　大学院生	小中学校で、感情のコントロールができず、きれて暴力をふるう児童生徒や、不安感情をコントロールできずに不登校になってしまう児童生徒への治療援助についての、教育臨床実践研究を行なうとともに、その背景となる事象についての調査研究を実施している。	現代的教育課題研究
	地方教育行政における市町村長と市町村教育長の関係に関する研究	平成 19 年度～平成 21 年度	佐々木幸寿	単独	教育行政が学校に与える影響 , 教育委員会組織が機能するための諸条件 , 教育長と市町村長との職務上の連携に関する研究	科学研究費補助金
自然科学系（個人）	珪藻を利用した水環境に対する意識を高めるためのウェブベースによる国際教材の開発と実践	平成 21 年 4 月～平成 24 年 3 月	真山茂樹（代表者）	村上潤（東京学芸大学附属小金井中学校）、中村美穂（東京家政大附属中学校）、黒田淳子（都立両国高校附属中学校）、加藤和弘・大森宏（東京大学農学生命科学研究科）、清野聡子（東京大学総合文化研究科）、M. ジュリウス .（米国、ミネソタ州立セントクラウド大学）、イジョンホ・チョンチョル（韓国、テグ大学）、E.A. ロボ（ブラジル、リオグランドスル大学）、S. ラタナポルン（タイ国、ブラパ大学）、M. プタモポルン（タイ国、シラパコーン大学）、A. ヴィットコフスキー（ポーランド、シチェチン大学）、P. ハミルトン（カナダ、自然博物館）、R. ヤーン（ドイツ、ベルリンダーレム植物園・植物博物館）、M. クリコフスキー（ロシア、科学アカデミー）、高亜輝（中国、アモイ大学）	河川環境と人間生活と珪藻の関係を理解するためのウェブベースによる国際教材を開発し、授業実践を行い、その結果をネット上へフィードバックし、さらにそれを利用することで、国際的な水環境意識の向上を目指す。本年度は、日、英、韓、西、葡、ポーランド、タイ、仏、独、露の各国語でウェブ教材を作成し、日本と米国の中学校にて授業を実践した。実践の内容は日本生物教育学会第 88 回全国大会（仙台）、第 20 回北米珪藻シンポジウム（アイオワレイクサイド）、CIS 珪藻会議（ミンスク）にて報告を行った。http://www.u-gakugei.ac.jp/ ～ diatom/	
芸術・スポーツ科学系（個人）	H21 年度重点研究「養護実習における大学と附属学校との連携」	H21,4,1-22,3,31	竹鼻ゆかり	* 竹鼻ゆかり、朝倉隆司、渡邉正樹（芸術スポーツ科学系　養護教育講座）、丸田文子、佐藤牧子、酒井順子、小熊三重子、遠藤真紀子、佐見由紀子、五十嵐靖子、五十嵐由美、塚越潤、酒井順子、大関智子、中谷千恵子（全附属学校　養護教諭）	全国の養護教諭養成系大学で行っている事前事後指導の内容、使用している実習要項や記録用紙を検討する。これにより、充実した養護実習を行うための事前事後指導の方法を明らかにするとともに、今年度作成した養護実習要項、記録用紙を改訂する。	H21 年度重点研究

芸術・スポーツ科学系（個人）	学部教育における総合的教員実践力の保証をめざすケースメソッド教育モデル教材の開発とその評価	H21,4,1-22,3,31	千葉大学・岡田加奈子	* 岡田加奈子（千葉大学）、竹鼻ゆかり（芸術スポーツ科学系　養護教育講座）、三村由香里、松枝　睦美（岡山大学）	我々は、今までケースメソッド教育を教員研修に導入するべく、さまざまな研究を行ってきた。その中で、養成段階における学生教育にも本法を導入することにより、実践力の育成が期待できると考えはじめた。　そこで本研究では、大学の学生を対象とした教員養成用ケースメソッド教育教材（ケースとテーチングノート）を開発し、実際の大学教育に導入し評価することとした。	平成 21 年度日本教育大学協会研究助成
	1 型糖尿病を持つ子どもの学校生活を支援するための教育プログラムの開発	H21 年度から 23 年度	竹鼻ゆかり	* 竹鼻ゆかり、朝倉隆司、正木賢一（芸術スポーツ科学系　養護教育講座）、高橋浩之（千葉大学）、佐藤千史（東京医科歯科大学）	本研究の目的は以下の２点である。 ①教諭や養護教諭向けの 1 型糖尿病を理解し支援するためのパンフレットやビデオなどの学習教材を開発する。 ② 1 型糖尿病を持つ子どもが , 周囲の人たちに自分の病気や状態をうまく説明し , ストレスに対処するなど充実した学校生活を送るための , 学習教材と教育プログラムの開発を行い , その有用性を検証する。	科学研究費基盤 C
教育実践研究支援センター（個人）	高等教育における eLearning の実践	2009.4.1 ～ 2010.3.31	東京学芸大学教育実践研究支援センター・和田正人	三石初雄（カリキュラム開発研究センター）・Dr Bruce Burnett（Queensland University of Technology)	大学教育における eLearning のカリキュラム、効果、問題点についての分析と実践	
	教員養成におけるメディア・リテラシー教育	2009.4.1 ～ 2010.3.31	東京学芸大学教育実践研究支援センター・和田正人	Dr Michael Dezuanni（Queensland University of Technology)	メディア・リテラシー教育のための教員養成カリキュラムの研究と実践	
	教職課程における諸課題に関する研究	平成 21 年度	東京地区国公私立大学教職課程研究連絡協議会「東教協」（代表 : 若林克彦･国士舘大学）	尾高進（工学院大学）、臼井嘉一（国士舘大学）、西島央（首都大学東京）、松丸修三（高千穂大学）、和田孝（帝京大学）、内野紀子（日本女子大学）、中田康彦（一橋大学）､佐藤公（武蔵野大学）、矢嶋昭雄、他会員大学より多数参加	免許更新講習や教職実践演習などのあり方や課題について、東京都教育委員会との協議を踏まえて、会員大学と情報交換を通して研究を行った。	
	教育実習における学生のメンタルヘルス支援に関する研究	平成 21 年度		矢嶋昭雄	3 年目を迎えた支援の実際について、そのシステムのあり方や課題について研究を行った。	
国際教育センター（個人）	「現代に生きるアンネ・フランク - 異文化理解と偏見を学ぶ -」に関する道徳教育教材・プログラム開発	平成 21 年度（平成 21 年 9 月から 22 年 3 月）	国際教育センター・吉谷武志	佐藤郡衛、見世千賀子（以上国際教育センター）、伊藤亜希子（山梨大学大学教育研究開発センター）、津山直樹（中央大学大学院）	本学の道徳教育教材・プログラム開発プロジェクトの一環として、アンネ・フランクの生涯を素材に、平和で公正な社会を築くという課題に参画しうる資質としての「市民性」をどのように育成するのか、参加型の手法を伴いつつ、中等教育段階の学校で使用できるようなプログラムを開発することを狙いとしている。	
	外国人児童の受け入れ体制の構築に関する調査研究	平成 21 年度（平成 21 年 4 月から 22 年 3 月）	国際教育センター・吉谷武志	佐藤郡衛、見世千賀子、榊原知美（以上国際教育センター）、墨田区立柳島小学校	平成 20 年度より、柳島小学校に新設された日本語教室（担当 : 中島教諭）の運営、学校体制作り、外国人児童生徒の学習支援方法、教材の選択、作成等、小学校における新設の日本語教室の体制作り全般について研究を行っている。	
教員養成カリキュラム開発研究センター（個人）	高等教育における eLearning の実践	2009.4.1 ～ 2010.3.31	東京学芸大学教育実践研究支援センター・和田正人	三石初雄（カリキュラム開発研究センター）・Dr Bruce Burnett（Queensland University of Technology)	大学教育における eLearning のカリキュラム、効果、問題点についての分析と実践	
	教員養成におけるメディア・リテラシー教育	2009.4.1 ～ 2010.3.31	東京学芸大学教育実践研究支援センター・和田正人	Dr Michael Dezuanni（Queensland University of Technology)	メディア・リテラシー教育のための教員養成カリキュラムの研究と実践	

教員養成カリキュラム開発研究センター（個人）	教職課程における諸課題に関する研究	平成 21 年度	東京地区国公私立大学教職課程研究連絡協議会「東教協」（代表：若林克彦・国士舘大学）	尾高進（工学院大学）、臼井嘉一（国士舘大学）、西島央（首都大学東京）、松丸修三（高千穂大学）、和田孝（帝京大学）、内野紀子（日本女子大学）、中田康彦（一橋大学）、佐藤公（武蔵野大学）、矢嶋昭雄、他会員大学より多数参加	免許更新講習や教職実践演習などのあり方や課題について、東京都教育委員会との協議を踏まえて、会員大学と情報交換を通して研究を行った。	
	教育実習における学生のメンタルヘルス支援に関する研究	平成 21 年度	矢嶋昭雄	矢嶋昭雄	3 年目を迎えた支援の実際について、そのシステムのあり方や課題について研究を行った。	
環境教育実践施設（個人）	雑穀類の起源と利用、環境文化と環境教育学、環境学習プログラムに関する研究	平成 21 年度	環境教育実践施設 木俣美樹男	木俣美樹男（環境教育実践施設）、研究室学生・院生と卒業生 ら	キビ・コラティ・コルネの栽培起源と調理法、奥多摩地域の生物文化多様性の調査などの基礎研究を基に、ELF 環境学習研修会テキストを開発し、エコミュージアム日本村作りに活用している。	
	教育基本法、環境教育推進法に対応する環境教育カリキュラムの構築	平成 21 年度	環境教育実践施設 木俣美樹男	杉森伸吉（学校心理）、三石初雄（カリキュラム開発センター）、原子栄一郎（環境教育実践施設）、岡田仁（世田谷中学校）、佐川勝史（竹早小学校）、院生ほか	個別教科における環境学習、合科による環境学習、発達段階をふまえて、統合的な環境科カリキュラムを検討する。	特別開発研究プロジェクトによる
	山村の伝統的知識体系の再生と継承～エコミュージアム日本村・植物と人々の博物館プロジェクト	平成 21 年度	環境教育実践施設 木俣美樹男	協力：　和田彩子、伊藤惇（修士課程環境教育コース）院生、本間由佳（学部美術科）および卒業生、山梨県小菅村教育委員会	エコミュージアム日本村のコア博物館として、植物と人々の博物館の一般公開展示「タイと多摩川流域の信仰環境と植物」を整備する。	
	環境教育とその方法論、緑地保存と環境教育に関する研究	平成 19 年 4 月～（継続）	環境教育実践施設 樋口　利彦	樋口利彦（環境教育実践施設）	緑地保全に関わる市民の主体性に関わる調査研究。	
	持続可能性の教育学に関する研究	平成 19 年 4 月 ～（継続）	環境教育実践施設 原子　栄一郎	環境教育実践施設専任教員プロジェクト学習科目・総合演習（樋口利彦コーディネーター）	産業革命を契機とする、19 世 l 紀から 20 世紀の「産業化社会 / 大量生産・消費・廃棄型製造業社会」と一体になった近代教育（学）を批判的に反省し、「環境革命」を契機とする 21 世紀の「環境化社会 / 持続可能社会 / 定常型社会」と連関する「持続可能教育 (sustainable education)j（学）について、原理的研究を行う。	
	河川環境とその展示教材に関する研究	平成 21 年 4 月～ 平成 22 年 3 月	環境教育実践施設 吉冨　友恭		河川の生物に焦点を当て、それらと環境との関わりを探るための研究を行なうとともに、その成果を題材とした展示や教材の開発を進め、その活用について検討する。	